



堤防の決壊を防ごうと、真剣な表情で訓練に取り組む消防団員

水害からまちを守れ！

水防訓練

6月4日、梅雨時期の大雨による水害に備えようと、そうじゃ水辺の楽校で水防訓練が行われました。訓練には消防団員ら約250人が参加。県下到大雨洪水警報が発表され、強い雨が降り、高梁川の水位が上昇したとの想定がされました。この訓練の目的は、増水した河川のはんらんを防いだり、堤防の崩壊を未然に防ぐこと。参加者らは、堤防に土のうを積み上げたり、枝葉の付いた木を堤防から流したりするなど、本番さながらの真剣な表情で作業にあたっていました。



高梁川合同堰で、堰の役割について説明を受ける子どもたち

用水の歴史や大切さを実感

緑と健康クラブが湛井十二ヶ郷用水を探検

子どもたちの自立や創造性の育成を目的に体験活動を行っている緑と健康クラブが5月20日、市南部の田を潤している十二ヶ郷用水を探検しました。この探検には約40人の子どもが参加。高梁川から水を取り入れている高梁川合同堰（井尻野）から清音公民館までの約5kmを、用水に沿って歩きました。途中、用水の歴史や役割についての説明や、流れが分かれる分水といわれる場所を見学。用水と生活との深い関わりを学び、その大切さを子どもたちは実感していました。

環境にやさしい燃料

バイオディーゼル燃料を導入

5月29日、市では2tトラックと10人乗りワゴン車の計2台のディーゼルエンジンを、バイオディーゼル燃料（BDF）で走らせ始めました。バイオディーゼル燃料は、食用油の廃油から製造されたもの。出力（馬力）は多少落ちるものの、価格も軽油より割安で、排ガスに含まれる二酸化炭素量、黒煙、硫黄酸化物が減り、環境にやさしいことがこの燃料の特徴です。今後、エンジンの調子や乗り心地などをチェックし、他のディーゼルエンジン車への導入も検討していきます。



トラックにバイオディーゼル燃料を注入中



日本の自然のすばらしさや、自らの取り組みについて熱く語るC.W.ニコルさん

すばらしい日本の自然を守っていこう

環境を考える集い

6月3日、市民会館で環境を考える集いが開催され、作家のC.W.ニコルさんが「森を育むもの」と題して講演を行いました。イギリスで生まれたニコルさんは、ふるさとウエールズでの悲惨な環境破壊の状況や、エチオピアの国立公園での命を懸けた自然保護活動を紹介。また、荒れた森を購入して、森の復活を試みる活動の様子を映像を交えて紹介しました。そのうえで「人間にとって一番大事な財産は目に見えないもの。それは健康、安らぎ、友情、愛情、そして未来を信じること。森に週1回だけでも帰れたら、人の本来の心が発見ができると信じている。森を守ろう。私たちだったらできるんだ。皆の感情が動いたらすばらしい国になる」と参加者らに訴えました。

また、池田小学校の池上宗一郎教諭による、実践事例発表もありました。池上教諭は、地域に根ざした環境学習のあり方や、子どもたちの環境活動の取り組みなどの研究発表を行いました。



実践事例の研究発表をする、池田小学校の池上宗一郎教諭

地域の交流の場

岡谷地区にコミュニティハウス完成

山手の岡谷地区に建設を進めていたコミュニティハウス「平和館」が完成しました。これは、地域住民のコミュニティ活動の場にと、宝くじの助成金を使って整備されたもの。多目的ホールや和室（2部屋）、調理室を備え、木のぬくもりが漂うつくりとなっています。事業費は約3,960万円。



岡谷地区待望のコミュニティハウス「平和館」